くにびき通信

2025年度　第7号

（11月19日～12月26日）

はじめに

　学園生の通院の際に待合室でふと見かけた夕方の情報番組で、今年は異例の暖冬で寒ブリの価格が高騰しているというニュースを見かけました。山村留学センターで勤務をしていると、自然に囲まれている分季節の変化を肌で感じやすいように思います。この時期は例年 11 月中旬の収穫祭を終えた頃からだんだんと寒くなり、紅葉の終わりと共に冬の訪れを感じます。そして初冠雪、初霜、初雪と、冬らしい気象イベントを数えながら、本格的な冬を迎える季節です。ところが今年は、肌感覚的にも本当に天候が安定しません。秋ごろに突然寒くなってみたかと思えば、夏の面影を感じるような暑い日が続いたり、12 月に入って初雪が降っても、下旬に差し掛かってから雨が続き、20℃近い気温で昼間は汗をかくような日もあり。なんとなくまだ 11 月の終わりか 12 月の頭のような気がするのにもう年の瀬が目の前に来ていて、なんとなく体内時計ならぬ体内カレンダーがずれてしまったような気がします。12 月下旬ともなれば、私は冬の澄んだ空気が恋しくなりますが、どうやら冬らしい冬は三学期にお預けのようです。

　収穫祭をはじめたくさんの行事を終え、長かった二学期が終わりに差し掛かっています。クリスマスやお正月、そして冬休みの帰省を楽しみにしている子どもたちです。ぜひ風邪などひかず、楽しい冬休みを過ごしてほしいと思います。そしてこの時期は、来年の進路を考える時期でもあります。山留生にとって大きな決断となる継続、卒園の選択。親元を離れ 1 年間山村留学をすることは容易ではありません。それでもこの一年、三瓶で過ごすことを選んだ留学生たち。来年度についても一人一人が真剣に自身に向き合い、進むべき道を見極めてほしいと思います。そしていずれは親元に帰っていき、そして自分の道を歩んでいく子どもたち。継続の如何に関わらず、ここで山留生として過ごせる期間は限られています。冬休みが開ければ 22 期のメンバーで過ごせるのもあと 3 か月。残り少ない日々ですが、まずは楽しい冬休みを過ごして、年明けにまた再会したいと思います。

　山村留学に関わる全ての皆様、今年も大変お世話になりました。みなさま、よいお年をお迎えください。

大田市山村留学センター
指導員　浅平　泰地

活動カレンダー

11月23日（日）	祖式町文化祭太鼓出演	12月13日（土）	原木切り
11月27日（木）	センター入り	12月14日（日）	炭焼き
11月29日（土）	酪農体験	12月20日（土）	大掃除 2学期誕生日会
11月30日（日）	酪農体験	12月21日（日）	上立石交流会
12月 5日（金）	農家入り	12月26日（金）	帰省
12月11日（木）	センター入り		

祖式町文化祭太鼓出演　　１１/２３（日）　晴れ

　大田市にある祖式町の文化祭に招待され、北三瓶っ子太鼓クラブで太鼓の発表をしました。この日はとってもお天気も良く、気持ちのいい空の下で太鼓を叩くことができました。とってもたくさんのお客さんがいる前での発表となりましたが、子ども達も慣れてきた様子で元気よく叩くことが出来ました。この日は、海のお囃子、豊年太鼓、三宅島太鼓の３曲を披露しました。太鼓が終わった後は、他の発表を見学したり、お金をもらって屋台などでお昼ご飯を買って食べたりして文化祭を楽しみました。

酪農体験　　１１/２９・３０（土日）　AM　晴れ

　普段センターで飲んでいる牛乳は近くの酪農家さんから頂いていますが、今回、その酪農家さんで酪農体験をさせていただきました。２日間とも、朝７時から牧場へいき、夜は２０時半ぐらいに帰園するハードなスケジュールでしたが、小学生は１日と次の日は夕方まで、中学生は丸々２日間やり切りました。朝と夕方は、牛舎の糞の片付け、餌やり、搾乳の仕事、日中は牧草地の石拾いをしたり、トラクターを洗ったり、おがくずを運んだりする仕事がありました。これらの仕事を酪農家さんの指示の元、継続生中心に声を掛け合いながら作業をしました。搾乳の際には、大きな体の牛に驚く新入園生に「人間が怖がっているから牛だって怖いんだよ」とアドバイスする継続生の姿もあり、一回り成長した姿を見ることもできました。２日間みっちり働いた学園生達は、疲れも見えましたが、それ以上に良い体験ができました。

原木切り出し　　12/１３（土）　PM　晴れ

　一昨年ぶりの炭焼きに向け、炭にする原木の切り出しをしました。例年は木工館の窯を使っていましたが、今年度からは境木の大谷さんのお宅の窯を使わせていただくことになりました。今回は原木も大谷さん宅の裏山で切り出します。この日は講師に、元林業従事者の三浦さん、山本さんにお越しいただき、木を倒す時の方法として受け口や追い口と呼ばれる切込みの入れ方や、狙った方向に切り倒すコツなどを教えていただきました。その後は、所々チェーンソーでサポートを頂きながら、最後は手ノコで原木を切り倒しました。倒れる前のパチパチと言う音や、メキメキと傾き始める感覚など、やってみて初めて感じる、木を倒す感覚を味わいました。倒した木は、ノコギリで80 センチの長さに切り揃え、太いものはマサカリやクサビを使って割っていきました。

炭焼き　　１２/１４（日）　晴れ

　前日に切り出した原木をいよいよ窯に入れていきました。地面には敷き木と言われる木の枝を敷き詰め、その上に原木を縦にして詰めていき、原木と窯の天井の隙間には乗せ木と言われる木を詰めていきます。窯の中は狭いので、常にしゃがんだ状態で作業するので大変でしたが、交代しながら上手に原木を詰めていきました。また、炭焼きには原木以外にも焚き木として使う木が大量に必要なので、窯入れの作業と並行して、窯の外では焚き木にする木をひたすら切っていきました。最後に、レンガと泥で障壁と窯口を作り、点火室といわれるスペースで火をつけて作業は終了。この後、約１週間ほどかけて、原木を炭化させていくことになります。窯から炭を取り出す作業は、年明けの１月１０日。どんな炭ができるか楽しみです。

大掃除　　１２/２０（土）　AM　晴れ

２学期末の大掃除をしました。トイレの換気扇や、お風呂の天井、みんなが乗る車や、窓拭きなど、普段手の届かないところを中心に、毎日の掃除ではしないところまで手を伸ばして掃除をしました。２時間半という短い時間でしたが、一人ひとりが集中して掃除ができました。「まだまだ時間が足りない。もっとやりたいとこがある」と言っている子がほとんどでした。

２学期誕生日会　　１２/２０（土）　PM　晴れ

大掃除の後、２学期の誕生日をお祝いする誕生日会が行いました。まず、午後一番にレク係が考えてくれた「ケイドロ」という鬼ごっこを１時間ぐらいしました。この日は天気も良く、半袖姿で飛び回っている子もいました。レクが終わると、料理係、飾りつけ係、レク係に分かれて夜の部に向けて準備をしました。料理係は、メニューから自分たちで考え作りました。今回のメニューは、パエリア、グリルチキン、ポテトサラダ、フライドポテト、オニオングラタンスープ、そしてデザートはアップルパイでした。飾りつけ係は、会場の飾りつけをして、レク係は後半のレクの準備をしました。そして、いよいよ誕生日会のスタートです。司会の朱陽と桜が進行して誕生日会が始まりました。まずはお誕生日の歌を歌い、乾杯をして、料理係が作ったご飯をみんな「美味しい」といって食べていました。ご飯の後はレクの後半戦です。後半戦はワードウルフといったゲームをみんなでしました。ゲームが終わるとデザート、くす玉をわる、そして最後はみんなから誕生日の人たち一人ひとりにお祝いのメッセージを送りました。一人ひとりが少し照れながらも、それぞれのいい所を言ったり、思い出を話したりといい時間を持つことが出来ました。最後は集合写真をとって終わりました。

上立石地区交流会　１２/２１（日）　曇り

この日は、上立石地区の方々との今年度３回目の交流会でした。朝から地域の方々も集まって、みんなで餅つきをしました。学園生は餅を搗く人と丸める人で交代しながらやりました。餅つきは金曜日に学校でもやったため、学園生も慣れた様子でした。丸めるのがなかなか難しく、地域のお母さんたちにアドバイスをもらいながら丸めました。地域の人達が持って帰る分と、学園生が持って帰ってお正月に食べる分をみんなで丸めました。たくさんあった気がしましたが、みんなでやるとあっという間に終わってしまいました。終わった後は、みんなでお昼ご飯を食べてビンゴ大会をして終わりました。今年はセンターで飾るように鏡餅も作ってもらいましたが、学園生も「本物のお餅で作る鏡餅は初めて見た！」と喜んでいました。年明けの鏡開きが楽しみです。

地域の方々との交流も３回目となると、学園生も慣れた様子で地域の人と話しながら作業したり、一緒に食事をしたりと楽しい雰囲気の交流会が出来ました。地域の方々に支えられながらこのセンターがあることを改めて感じる会でした。

西村崇司のつぶやき

＼考えるより調べる／

日々過ごすうえであなたにとってなくてはならないものなんですか、と問われたらなにを思いつきますか。わたしはいつの頃からかそんなことをなんとなく考えています。思いつくものを挙げると、お金、塩、冷凍庫、自由な時間、ジップロック、信頼、カップヌードル、ナイフ、愛または愛情、メガネ、家族、漱石の本、マッチ、太陽、平和、新聞、つながり・・。いつそんなことを思いついたのか時系列はバラバラです。塩を例にとると、基本的な味であり防腐の機能もある点では醤油やコショウなどもあります。むかしタバコを吸っていたころ、祖父たちの日常であった「キセルでタバコをのむ」という行為を追体験できるかもしれないとの下心で東京出張時に行った「塩とたばこの博物館」で、し好品のたばこと基本調味料の塩が世界スケールで学べることからよく通った思い出があります。きわめつけは、やってはいけないことですが世界の至る所から収集されたオープン展示品の岩塩のいくつかをこっそりと舐めたことも手伝ってなくてはならないものの上位にいます。ずいぶん前、「バカの壁」で知られる養老孟司さんが、「電気というものはとてもありがたい。とりわけ、戦前に生を受けた身として照明（明かり）は育っていく過程で、ろうそく、カーバイド、石油系燃料を経ていま安価で安全で安定供給できる電気の恩恵に浴する世界にいられることは夢のようだ」と話されていたことを思い出し、電気も捨てがたいなと思ったりします。

最近、気になっていることがあります。ほとんどの方がスマートフォンを持っていますが、一人のときも何人かで話しているときもよくスマホを触っています。わたしがスマホを持っていないので想像の域を出ませんが、何をしているかといえばわからないことや探しものを調べていることが多いのではと感じています。というのも、最近の機械器具の取扱説明書は詳細な記述がなく「わからないことはスマホで調べてね」となっていると知人に聞いたことや、話し合っていると「いまスマホで調べたら〇〇〇が出てきました」といった場面が多いからです。一瞬にして答えや探し物が導かれることの恩恵に浴することは良く理解できますが何か落ち着かない気持ちになります。勝手な考えですが、ちょっとでも考えるという過程がないことが本当に良いのかと思ってしまいます。問いと答えのあいだがあまりにも一瞬でそれも直線的過ぎて無機質に思えてなりません。電気がないとスマホも動かないのにとひがんだりしますが、そんなに急いでどうする、という考えは淘汰され早く答えがわかって何が悪いという考え方が当たり前になっているんでしょうかね。たくさんの刺激を与えたくださる先輩が書かれたエッセーの中の「‥夜間、大田から出雲のフードバンク利用に来るような現状は、「極端な例だ」として無視してはいけない。当事者は「社会全体で子どもを産み育てる」は”うそ”だと思い、悲しかろう。・・」の一文が時折りふっと出てこころが揺らぎます。生きることは社会とつながることだとすれば、想像したり考えたり議論する時間がもっと必要となる時代にどう対応すればよいのでしょう。

職場の事務室のカレンダーがまっさらな２０２６（令和８）年版に変わりました。みなさんにとって真っ白な未来の月日がゆたかでありますように。手のつかぬ月日ゆたかや初暦（吉屋信子）。良いお年を。

「くにびき通信」2025年度　第7号

大田市
山村留学センター
Sanbe Kodama Academy

〒694-0002 島根県大田市山口町山口1694
TEL: 0854-86-0700　FAX: 0854-86-0701　Email: o-sanryu@city.oda.lg.jp

大田市山村留学センターバックナンバー
公式ホームページ